

その会議の「目的」は何か？

～目的別会議進行のススメ～

働き方改革の流れのなかで、無駄に長い会議は批判の対象とされていますが、メンバーが一堂に会して対話をする機会を持つことには効能もあります。

はじめに

日本の企業における会議のやり方については、「会議の準備資料作りに時間をかけすぎる」「作った資料をただ読み上げることに時間を使う」「形式的でダラダラと長い」など色々な問題点が指摘されています。

しかし、メンバーが直接集まって対話することがアイデア創出やコミュニケーションの円滑化に繋がることもあります。働き方改革のために社内の会議を改善する際の、「目的別」進行方法について紹介します。

3つの目的

会議を行う場合の最終的な目的は次の3つに集約されます。

会議の目的

- ・意思決定
- ・アイデア出し
- ・チームビルド

会議がうまくいかない時、この目的が明確なものとして共有されていなかったり、複数の目的が混在していたりすることが原因であることが多いようです。では、それぞれの目的に応じて、どのように会議を進行すればいいでしょうか。

会議の目的を伝える

会議の目的が何であっても、会議の招集時に目的を知らせることは共通して大切です。



何のために集まるのか、ゴールは何かを最初に伝え、会議進行中も参加者の目につく場所に書いておくことで議論の脱線を予防することができるでしょう。

1. 意思決定

会議の目的が「やること/やらないことを決める」「選択肢を選ぶ」などの意思決定の場合、事前準備により会議時間の短縮が可能です。会議前に意思決定に必要なデータやリスクについて共有し、参加者に目を通してもらった上で、会議の場では決定することに集中すると良いでしょう。「会議までに資料に目を通し、自分の意見を用意してこないことは参加者の責任を果たしていないことだ」という空気を作ることが成功のカギです。

2. アイデア出し

会議の目的がアイデア出しの場合、アイデアの「総数」並びに「発言頻度」が会議成功の尺度となります。「その場で意思決定をしなくて良いこと」を表明し、参加者の意見を否定せずどんどんアイデアを出してもらいましょう。人前での発言に抵抗を感じるメンバーに対しては、小グループで話す環境を作ると発言が促されます。出たアイデアはホワイトボードに書き足していくと、組み合わせた新たなアイデア創出の役に立ちます。

3. チームビルド

会議の目的がチームビルドである場合、体験型学習がふさわしいでしょう。お題を与えてグループで問題解決に取り組みせ、プレゼンテーションを行い、チームワークによる小さな成功体験を積ませることを意識してはいかがでしょうか。チームビルドを目的とした会議の場合、会議の終盤に振り返りの時間を設けることが重要です。

他者との違いや協働作業をして感じたことなど、チームのあり方について自分の考えを述べてもらうことで、よりチームを意識するよう促すことが可能です。